



個別の状況に応じたカリキュラムの 編成・実践に関する提案

【実践事例編】

～*Society5.0* を見据えた
「学びの変革」のアップデート～

令和4年3月
広島県教育委員会事務局
義務教育指導課

～ 目 次 ～

はじめに

- 1 個別最適な学びに関する実証研究の取組概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
- 2 個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気づき・・・・・・・・ P.3
- 3 個別最適な学びの教育効果（概要）・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4
 - 3-① 教育効果等の分析サマリー（廿日市市立宮園小学校）・・・・ P.6
 - 3-② 教育効果等の分析サマリー（江田島市立三高小学校）・・・・ P.8
 - 3-③ 教育効果等の分析サマリー（三次市立みらさか小学校）・・・・ P.10
 - 3-④ 教育効果等の分析サマリー（三次市立三良坂中学校）・・・・ P.12
 - 3-⑤ 教育効果等の分析サマリー（福山市立福山中学校）・・・・ P.14
 - 3-⑥ 教育効果等の分析サマリー（廿日市市立金剛寺小学校）・・・・ P.16



はじめに

【県の動き】

○本県では、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、個別最適な学びに関する調査研究を進め、令和2年3月に「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」として整理するとともに、同年4月から、県内4地域において「個別最適な学びに関する実証研究」に取り組んできました。

【国の動き】

○令和3年1月に、中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」が答申されました。

<ポイント>

「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難になってきている中、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要がある。」

【本冊子の活用イメージ】

○各実証研究校での実践事例や教育効果の検証結果などについて、上記提案に関する「実践事例編」として取りまとめました。これらは、あくまで選択肢の一つです！

○各学校が掲げる教育目標の実現に向けて、各研究実証校の実践事例の中から、「効果がありそう！」「取り入れてみたい！」と思う事例があれば選択し、まずは実践してみてください。きっと、子供たちは、これまで以上に、主体的に学ぶ姿を見せてくれると思います。

令和4年3月

1 個別最適な学びに関する実証研究の取組概要

廿日市市立宮園小学校

令和2～3年度実施

【自由進度学習】

子供たちが「学習計画表」を活用して教科書、プリント、AI型タブレット教材等の多様な選択肢の中から自分に合った学習方法を選択し、自分のペースで学んでいます。



自分に最適な方法やペースで学習を進めるからこそ自然に教え合う場面も見られます♪

三次市立みらさか学園

令和2～3年度実施

【プロジェクト学習】

子供たちは自ら学習プランを作成し、試行錯誤しながら、自己を調整する力や協働力を活用して課題解決を目指していく「単元別プロジェクト学習」に取り組んでいます。



自分に最適なプランを作成することで、自分の学びに責任を持つようになりました♪

令和2～3年度実施

江田島市立三高小学校

【イエナプランを参考にした自立・協働学習】

自然に対話が生まれる学びの環境づくりを大切にし、「学習計画表」を活用して自分のペースで進める自立学習や、子供たちの問いから始まる異年齢集団での探究学習に取り組んでいます。



多様性を尊重し、子供たち同士の対話や協働の場を大切にしています♪

令和2～3年度実施

福山市立福山中学校

【興味・関心に応じたMY探究】

「i.dream 一人一人の夢の実現」を目指し、総合的な学習の時間を中心に生徒一人一人の興味・関心に基づくMY探究を企画し、自分のやり方やペースで実行していく中で、夢の実現に主体的にコミットしています。



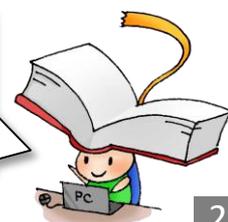
自分の興味関心をカタチにしていくなので生徒たちのワクワクが止まりません♪

廿日市市立金剛寺小学校

令和3年度実施

令和3年度から、新たに実証研究校に加わり、ICT機器の活用も含めた、個別最適な学びに関する研究を進めています！

一人一人の学習進度・能力・関心等に応じた**多様な選択肢**を提供することで、子供たちは**自己決定**を繰り返しながら**主体的な学び**を展開しています！



2 個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気付き

Goal 全ての児童生徒の「**主体的な学び**」の実現

手法 子供の実態に応じた多様な「**選択肢**」と「**自己決定**」を意識した教育活動

Point 1 教職員の大切にしたい心の持ち方・考え方
(次のようなマインドセットを意識)

- 学びの主体は子供 (⇒ 支え励まそう)
- 子供は力を持っている (⇒ 委ねよう)
- 子供には多様性がある (⇒ 尊重しよう)

実証校では、「どんな子供を育てたいのか?」「そのために、何に取り組むのか?」等 **じっくり対話する時間を設けています。**



Point 2 子供の実態(学習進度・能力・関心等)に応じた多様な**選択肢**と**自己決定**場面を設定

自由進度学習 プロジェクト学習 MY探究 等

大切なのは、学校の教育目標の実現に向けて、何ができるのかを考えることです。児童生徒の実態も異なるため、実証校の取組は様々ですが、自己決定を意識しているところは共通しています。



実証研究校での検証結果 (教育効果)

- ◆ 子供たちの資質・能力が向上した
- ◆ 自己決定すれば、実行力・自己効力が伸びた
- ◆ 子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった

(各種アンケート 肯定的回答 主体性:約95%, 理解度:約95%, 満足度:約92%)

検証による数値的な伸びもそうですが、**子供たちが主体的に学ぶ姿に手ごたえを感じています。**



3 個別最適な学びの教育効果(概要)

◆「主体的な学び」を定着させるための仮説

- 子供の実態に応じた多様な学びの選択肢を提供し、子供たちの自己決定場面を増やすことにより、子供たちが主体的に学び続ける！

多様な学びの選択肢
を提供

自分に最適な学び
を選択・実践

学ぶ楽しさ・できる喜び
を感じる

自己肯定感
が向上

主体的に
学び続ける



- この過程において、子供たちの資質・能力が向上する！

◆ 検証結果

- 実証研究校において、次のとおり、仮説を裏付ける結果が得られた。

項目	結果概要
①資質・能力の相関	決断力や実行力の伸びは自己効力の伸びに影響する
②資質・能力の変容	学校で育成したい資質・能力が向上
③資質・能力と学力テスト結果との相関	資質・能力の伸びが学力テスト結果に影響する
④児童生徒アンケート結果	主体性・満足度・理解度などが向上
⑤教職員インタビュー結果	自己肯定感や主体性の向上などに手応えあり

【参考】資質・能力の測定分析方法

- 各学校において育成したい資質・能力に関連するコンピテンシーを設定し、AiGrow（※）を活用して、取組前後の伸びを測定・分析した。

コンピテンシー	コンピテンシー詳細	各学校で設定したコンピテンシー					
		宮園小	三高小	みらさか小	三良坂中	福山中	金剛寺小
課題設定	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を自ら考え出せる能力				●	●	
創造性	自分ならではの独自性に加えて、実現可能な生産性を伴ったアイデアを出すことのできる能力				●	●	
論理的思考	道理や筋道に即して物事を深く考えることができ、複雑なことでも分かりやすく説明できる能力	●	●	●	●	●	●
疑う力	他者の意見をそのまま鵜呑みにすることなく、必要に応じて建設的な反論をすることのできる能力					●	
個人的実行力	自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力	●	●	●	●	●	●
ビジョン	将来、自分がどのように成長していきたいかなど、未来の目標を明確に持つことのできる能力				●	●	
耐性	困難な状況であっても、自分で決めたことは最後までしっかりとやり抜くことのできる能力				●	●	
自己効力	何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力	●	●	●	●	●	●
決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力	●	●	●	●	●	●
表現力	自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力	●		●	●	●	
共感・傾聴力	相手の話を真剣に聴き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重することのできる能力					●	
外交性	例えそこが未知の環境であったとしても、自ら進んでその環境に飛び込むことのできる能力				●		
柔軟性	変化への対応力とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正することのできる能力					●	
寛容	自分とは考えや意見の異なる相手に対しても理解を示し、それを許容する態度が持てる能力	●	●	●	●	●	●
影響力の行使	他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力				●	●	
地球市民	自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力				●	●	

※ AiGrow：AIを活用してコンピテンシー（ある役割において優秀な成果を発揮するための行動特性）を測定・可視化できるEdTechソフト

3-① 教育効果等の分析サマリー(宮園小学校)

実証研究概要	学校重点目標	協働し、主体的に学ぶ児童の育成 ～自立・多様性の尊重・挑戦～
	育成したい資質・能力	主体性・積極性, 思考力・表現力, 自己調整力, 情報活用能力, 自己有用感, 協調性
	実証手法 (自己決定場面)	自由進度学習(小3～6) - 学習計画表に基づき, 単元内を自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, AI型タブレット教材など
	測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容 (AiGrow活用:R2.7→R4.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍:標準学力調査 R4.1)

①

資質・能力の相関

相関係数の目安

0.4～0.7 正の相関がある

0.2～0.4 弱い正の相関がある

0～0.2 ほとんど相関がない

・個人的実行力の伸びと自己効力の伸びに正の相関が見られることから, 自分の意志で行動することと自分ならできると自信をもつことは相関していることが分かる。

②

資質・能力の変容

コンピテンシーが成長した児童の割合

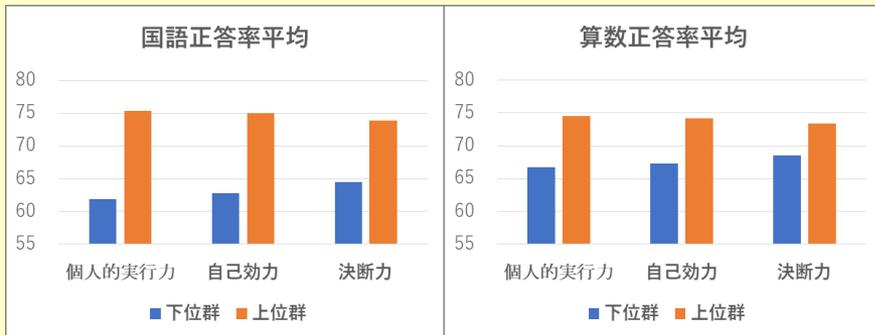
・今年度, 様々な学習コーナーを設置し, 身に付けた知識・技能を活用し表現する場面を多く取り入れたことにより, 「表現力」が伸びた。

・自由進度学習の中で, 順序選択だけでなく, 内容の選択もできるようにするなど, 児童が自己決定する場面を増やしたことにより, 自分の学びの状況を考えながら学ぶ内容を決めたりするようになるなど, 「決断力」が伸びた。

・自立した学習の中で, ゆるやかに協働する場面を推奨したことにより, 児童が援助希求できるようになったり, お互いに協力して学ぶことができるようになったりし, 「寛容」が向上した。

※令和2年度 1回目から令和3年度 2回目(最終受検)の成長を分析

③ 資質・能力と学力テスト結果との相関



【国語・算数】

・コンピテンシーのスコアが高い児童の方が、学力テストの結果が高い傾向が見られた。特に、国語科において顕著な差が見られた。
 ・どちらの教科とも、個人的実行力では、顕著な差が見られた。

④ 児童アンケート結果

<自由進度学習について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	94%
理解度	これまでより分かりやすかった	95%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	93%

【主なコメント】

・自分で計画に合わせて学習を進めることができるようになった。
 ・分からないところは、自分が理解できるまでじっくり考えて進めることができるのがいい。

⑤ 教職員1人1人結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で付けるべき力を明確にし、児童と共有して進めることが大切だと考え、実践するようになった。 ・学習環境を整えると、子供たちは自ら学ぼうとする力を発揮して、学びを進めることができるのだと実践を通して感じる事ができた。
児童の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・何が分かって何が分からないのかを明確にしたり、次にどうするのか考え、見通しをもって取り組んだりする子が増えてきた。 ・自主学習でも、自分で計画を立てて進めている子が増えてきた。

今後の対応

次年度以降に取り組みたいこと

・今年度、低学年でも自由進度学習に取り組んだところ、児童が主体的に学ぶ姿が見られた。次年度は、低学年を含めた全学年で自由進度学習の取組を進めていく。
 ・2年間の教育研究を通して、指導の個別化に関わる取組(自由進度学習)は充実してきた。次年度は、この取組を深化させるとともに、学習の個性化に焦点を当て、何ができるのかを協議し、新たな取組についても考えていく。

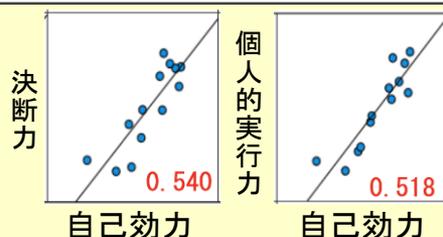
3-② 教育効果等の分析サマリー(三高小学校)

実証研究概要

学校重点目標	自ら学び、ともに伸びる子どもの育成
育成したい資質・能力	主体性, 共感力, 表現力, 自己肯定感
実証手法 (自己決定場面)	イェナプランを参考にした自立・協働学習 - 学習計画表に基づき, 算数や国語の授業を中心に自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, AI型タブレット教材など - 異学年での探究学習における探究テーマや解決手法等を自分で選択
測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 寛容 (AiGrow活用: R2.7→R4.2)
学力テスト	算数, 国語 (東京書籍: 標準学力調査 R4.1)

①

資質・能力の相関



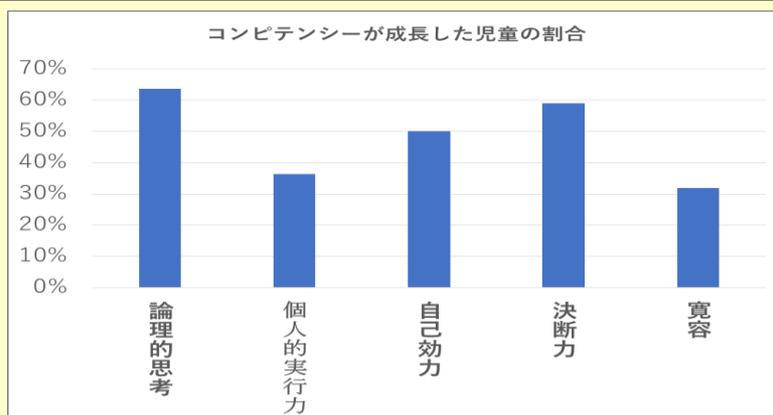
相関係数の目安

- 0.4~0.7 正の相関がある
- 0.2~0.4 弱い正の相関がある
- 0~0.2 ほとんど相関がない

・決断力, 個人的実行力の伸びと自己効力の伸びに正の相関が見られることから, 自分の意志で物事を決め, 行動することと自分ならできると自信をもつことは相関していることが分かる。

②

資質・能力の変容

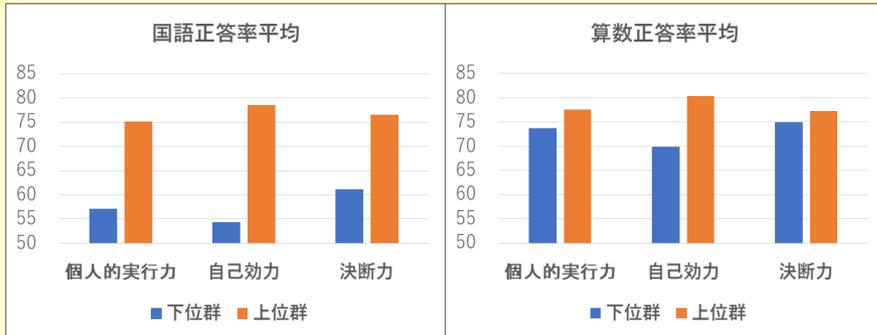


※令和2年度 1回目から令和3年度 2回目(最終受検)の成長を分析

・昨年度, 論理的思考の伸びが課題となったため国語科において, 思考力・判断力・表現力等を発揮させる場を位置付けた単元づくりを校内全体で取り組んだところ, 自立学習の中で, 課題解決に向けて筋道立てて考えるようになるなど, 「論理的思考」が大きく伸びた。

・異学年での探究を進める際, 児童のやってみたいという気持ちを大切にし, 児童の自己決定場面を意識して設定したことで, 児童が学びの主体となり学びを進め, 見通しをもち次にどんなことに取り組めばよいのかを決めるようになるなど, 「決断力」が伸びた。

③ 資質・能力と学力テスト結果との相関



【国語・算数】

・コンピテンシーのスコアが高い児童の方が、学力テストの結果が高い傾向が見られた。特に、国語科において顕著な差が見られた。
 ・どちらの教科とも、自己効力では、顕著な差が見られた。

④ 児童アンケート結果

<イエナプランを参考にした自立・協働学習について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	90%
理解度	これまでより分かりやすかった	98%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	71%

【主なコメント】

・他の学年の人がいると、分からないことを助け合うことができた。
 ・みんなで話し合ったり、チームで協力したりして進めることができた。
 ・分からないことが聞きやすかった。

⑤ 教職員以外への結果

区分	主なコメント
指導・支援	・多くの子供たちが自分事として探究できるように、子供たちのやってみたいという気持ちを大切に学びを進めていくようにした。
児童の反応・変化	・異学年での学び合いでは、上の学年の子が下の学年の子をサポートしながら学ぶことができており、お互いに認め合う場となっていた。 ・学習計画を子供たちと共有することで、「何のために学習しているのか」というゴールが明確になり、子供たちが主体的に学ぶようになった。

今後の対応

次年度以降に取り組みたいこと

・今年度、総合的な学習の時間等において、異学年での探究学習を取り組んだところ、他学年の子供たちが協働して学ぶ姿が見られた。次年度は、学びがより深まるように、事前の準備や教材研究を充実させていく。
 ・複式学級における自由進度学習の取組は、子供たちが主体的に取り組んでおり、手ごたえを得ることができた。次年度は、この取組を多くの教科や単元に広げていく。

3-③ 教育効果等の分析サマリー(みらさか小学校)

実証研究概要	学校重点目標	自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する児童の育成
	育成したい資質・能力	自己を調整する力, 対話力, 郷土愛
	実証手法 (自己決定場面)	「見つける・選ぶ・探す・解決する」単元別プロジェクト型学習 - 単元のプロジェクトを達成するための学習計画を自分で作成し、自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, タブレットなど
	測定コンピテンシー	課題設定, 論理的思考, 創造性, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容など (AiGrow活用: R2.7→R4.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍: 標準学力調査 R4.1)

①

資質・能力の相関

相関係数の目安

0.4~0.7 正の相関がある
0.2~0.4 弱い正の相関がある
0~0.2 ほとんど相関がない

・決断力の伸びと自己効力の伸びに正の相関が見られることから、自分の考えをもとに物事を判断することと自分ならできると自信をもつことは相関していることが分かる。

②

資質・能力の変容

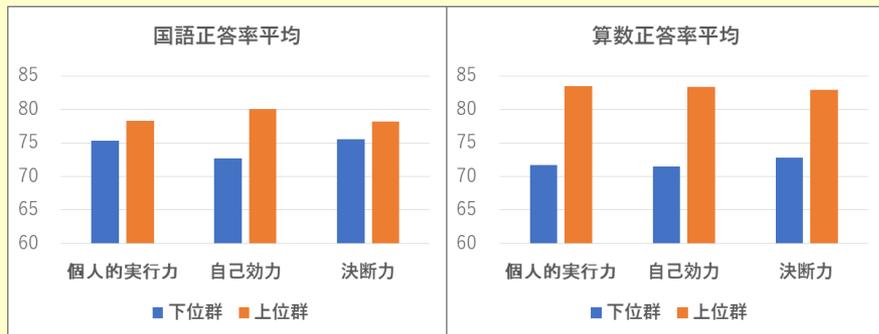
コンピテンシーが成長した児童の割合

・児童の学校生活につながるリアルなプロジェクトづくりを進めたところ、児童が学びの主体となり学びを進めるようになり、自らの意志によって行動を起こして計画を進めるなど、「個人的実行力」が伸びた。

・育成したい資質・能力のうち、自己を調整する力に重点を置き、単元の学習計画を作る際に、児童が自己決定する場面を増やしたり、活動した後に自分の学びの進め方を振り返る場面を設けたりしたことにより、客観的な事実と照らし合わせながら判断し、物事を決めたりするようになるなど、「決断力」が伸びた。

※令和2年度 1回目から令和3年度 2回目(最終受検)の成長を分析

③ 資質・能力と学カテスト結果との相関



【国語・算数】

・コンピテンシーのスコアが高い児童の方が、学カテストの結果が高い傾向が見られた。特に、算数科において顕著な差が見られた。

④ 児童アンケート結果

<単元別プロジェクト学習について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	92%
理解度	これまでより分かりやすかった	96%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	92%

【主なコメント】

・自分に合った方法やペースでできるから楽しい。
 ・自分で学習を進めることで、自己を調整する力がついて成長できている気がする。

⑤ 教職員以外への結果

区分	主なコメント
指導・支援	・プロジェクト型学習では、教科横断的に学習を進めやすいため、他教科で学んだことを生かし学習を進めることができた。 ・児童だけでなく、指導者側も目的意識をもって、単元の学びを進めることができた。
児童の反応・変化	・「これ調べたい」「これを考えたい」という意欲的な児童の姿が多く見られた。 ・何のために、この単元を学ぶのかという目的意識をもって学習に取り組むことができた。 ・タブレットの活用方法も含めて、学び方を習得し、主体的に活動する姿が増えた。

今後の対応

次年度以降に取り組みたいこと

・「見つける・選ぶ・探す・解決する」単元別プロジェクト型学習を通して、児童が生き生きと学ぶ姿が多く見られた。次年度は、こういった学びを支える土台づくり(学び合いのルール等)に焦点を当て、実践の深化を図る。
 ・2年間の教育研究を通して、児童の自己を調整する力は発揮して、学ぶ姿が増えてきた。次年度は、この力を教育活動の様々な場面で発揮できるようにしていく。

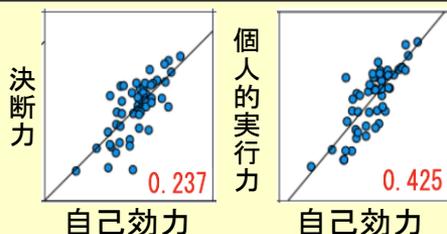
3-④ 教育効果等の分析サマリー(三良坂中学校)

実証研究概要

学校重点目標	自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する生徒の育成
育成したい資質・能力	自己を調整する力, 対話力, 郷土愛
実証手法 (自己決定場面)	単元別プロジェクト学習 - 単元のプロジェクトを達成するための学習計画を自分で作成し、自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, タブレットなど
測定コンピテンシー	課題設定, 論理的思考, 創造性, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容など (AiGrow活用:R2.7→R4.2)
学力テスト	国語, 数学, 英語 (東京書籍:標準学力調査 R4.1)

①

資質・能力の相関



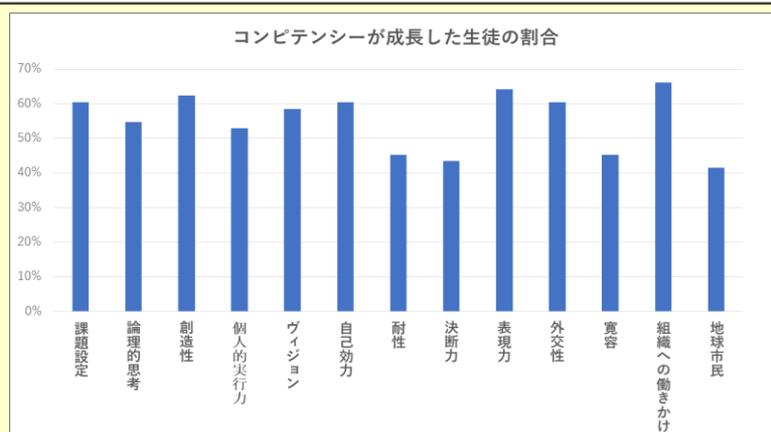
相関係数の目安

- 0.4~0.7 正の相関がある
- 0.2~0.4 弱い正の相関がある
- 0~0.2 ほとんど相関がない

・個人的実行力の伸びと自己効力の伸びに正の相関が見られることから、自分の意志で行動することと自分ならできると自信をもつことは相関していることが分かる。

②

資質・能力の変容

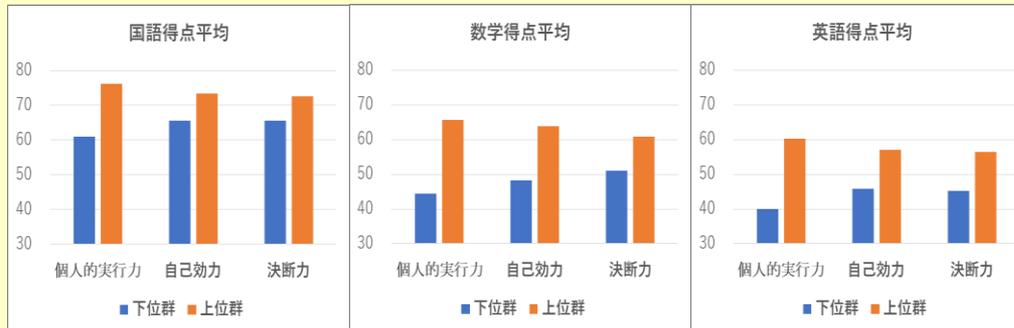


※令和2年度 1回目から令和3年度 2回目(最終受検)の成長を分析

・個別にプロジェクトを進める中で、ゆるやかな協働を奨励したところ、自分だけでなく、周りの友達との課題解決も一緒に解決しようとする生徒が増え、目標達成のためにチームワークを高めようとする雰囲気が生まれるなど、「組織への働きかけ」が大きく伸びた。

・自分の学習計画を立てる授業マップの枠をなくし、自分が分かりやすいようにマップを作成させたり、生徒一人一人が学習課題を設定し、学習に取り組むようにしたりすることで、自分なりの独自性を加えて物事を考える「創造性」や「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」といった「課題設定」が大きく伸びた。

③ 資質・能力と
学力テスト
結果との
相関



【3教科共通】
 ・コンピテンシーのスコアが高い生徒の方が、学力テストの結果が高い傾向が見られた。
 ・3教科共通して、個人的実行力では、顕著な差が見られた。

④ 生徒
アンケート
結果

<単元別プロジェクト学習について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	93%
理解度	これまでより分かりやすかった	93%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	74%

【主なコメント】
 ・自分のペースでできて、焦りがないので楽しく学ぶことができる。
 ・自分で計画や内容を考えることで、自分が分かりやすい形で学びを進めることができる。

⑤ 教職員
インタビュー
結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・一方通行の教え込みの授業が減った。 ・単元を通して学ばせる内容を整理することで、生徒主体で学ぶ授業づくりができるようになり、授業づくりが楽しくなった。
生徒の 反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が設定した課題を探究するため、これまで以上に意欲的に取り組むようになった。 ・生徒自身が「何をしたいのか」を考えて、授業に取り組むようになった。 ・様々な場面で、その活動の目的や趣旨を理解して取り組む生徒が増えてきた。

今後の
対応

次年度以降に
取り組みたいこと

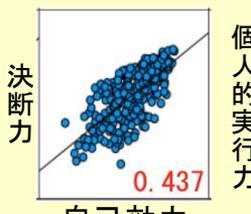
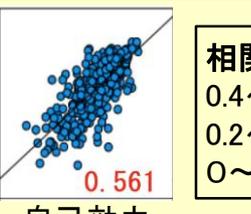
・今年度は、準備レポートと授業マップを活用したプロジェクト型学習を通して、生徒が見通しをもち、主体的に学ぶ姿が多く見られた。次年度は、この取組を多くの教科に広げていくとともに、生徒の学びがより探究的になるようにしていく。
 ・小中一貫校の良さを生かし、小学校での土台づくり(学び合いのルール等)を生かし、「学び方」を学ぶ取組を充実させていく。

3-⑤ 教育効果等の分析サマリー(福山中学校)

実証研究概要	学校重点目標	創造的な知性と豊かな心の調和的発展を図り, 国際社会に貢献できる人間を育成
	育成したい資質・能力	情報整理力, 表現力, 課題解決力, 協働, 自他の尊重, チャレンジ精神
	実証手法 (自己決定場面)	興味関心に応じたMY探究 - 各自の興味関心に基づいて探究テーマを決定(個別の問いや課題の設定) - 活動内容・方法・場所・時間・ペースなど全て自分で企画し, 実行・振り返り・改善を繰り返す
	測定コンピテンシー	課題設定, 論理的思考, 創造性, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 柔軟性など (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語, 英語 (ベネッセ:学力推移調査 R3.11)

①

資質・能力の相関

相関係数の目安

0.4~0.7 正の相関がある

0.2~0.4 弱い正の相関がある

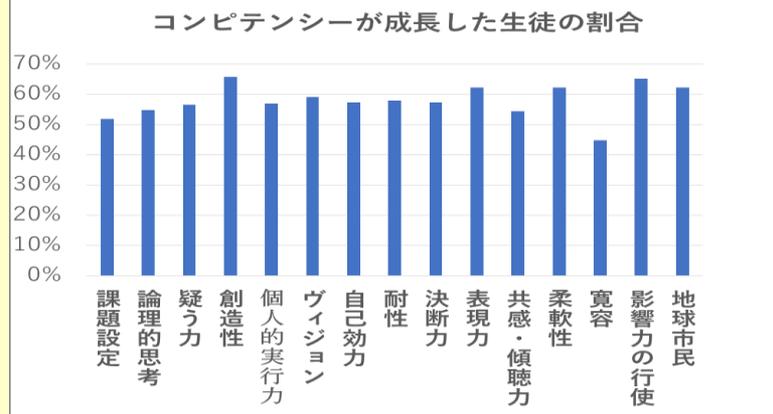
0~0.2 ほとんど相関がない

・決断力, 個人的実行力の伸びと自己効力の伸びに正の相関が見られることから, 自分の意志で物事を決め, 行動することと自分ならできると自信をもつことは相関していることが分かる。

②

資質・能力の変容

コンピテンシーが成長した生徒の割合

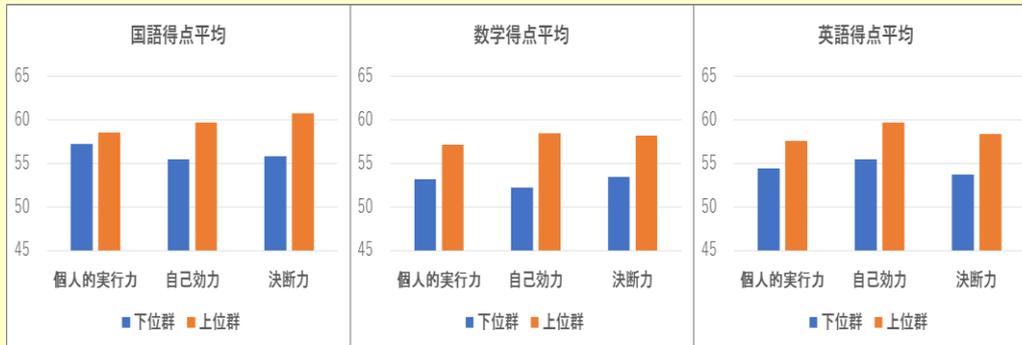


・今年度は, 企業や先生が生徒の探究活動に伴走するゼミ制を取り入れて進めたところ, 学校外と連携しながら探究を進める生徒が増え, 他者と協働するために自分の考えや目的を伝えながら協働して物事を進める「影響力の行使」や自分の住む地域はもちろん世界の一員として何ができるかを考える「地球市民」が大きく伸びた。

・My探究2年目を迎え, 自分事として探究活動を進める生徒が増えたため, 自分ならではの独自性を加えて探究を進める「創造性」や様々な課題に対してその場その場で機転を利かせて対応する「柔軟性」が大きく伸びた。

※令和2年度 1回目から令和3年度 2回目(最終受検)の成長を分析

③ 資質・能力と学力テスト結果との相関



【3教科共通】
 ・コンピテンシーのスコアが高い生徒の方が、学力テストの結果が高い傾向が見られた。特に、数学科における自己効力に顕著な差が見られた。

④ 生徒アンケート結果

<興味関心に応じたMY探究について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	以前の総合よりも主体的に取り組めた	95%
理解度	以前の総合よりも資質・能力が向上した	94%
満足度	今後もこういうMY探究を続けていきたい	94%

【主なコメント】
 ・計画を立て実行する力がついた。
 ・MY探究のおかげで、自分の特技を見つけることができた。また、イベントなどをやってみたい。

⑤ 教職員インタビュー結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間だけでなく、他教科や学校生活全体で、生徒に委ねて行動させる場面が増えた。 ・自分たちにファシリテーターとしての役割意識が芽生え始めた。 ・生徒にしっかり考えさせ、考えたことを実行に移させるようになった。
生徒の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・MY探究の活動を通して、自分に自信をつけた生徒が増えた。 ・MY探究以外の場面でも、自ら計画を立て、実行に移す力が付いてきた。

今後の対応
 次年度以降に取り組みたいこと

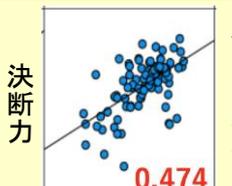
・今年度、企業や先生が生徒の探究活動に伴走する取組として、ゼミを設置したところ、ゼミに参加している生徒の探究活動が充実したり、学年を越えた協働が生まれたりした。次年度も、どのようなゼミが設置できるかを検討し、生徒の探究を支える環境づくりに取り組んでいく。
 ・2年間の教育研究を通して、MY探究(総合的な時間)の取組は充実してきた。次年度は、各教科における探究学習の充実に取り組んでいく。

3-⑥ 教育効果等の分析サマリー(金剛寺小学校)

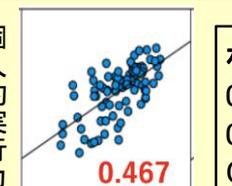
実証研究概要	学校重点目標	自ら考えて動く子供の育成 ～自立・多様性の尊重・挑戦～
	育成したい資質・能力	主体性・積極性, 思考力・判断力・表現力
	実証手法 (自己決定場面)	ICT活用による, 児童が学び合い, 探究し続ける授業 - ジャムボードを活用して, 学習計画を立てて, 自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, タブレットなど
	測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容 (AiGrow活用:R3.7→R4.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍:標準学力調査 R4.1)

①

資質・能力の相関



0.474



0.467

相関係数の目安

0.4～0.7 正の相関がある

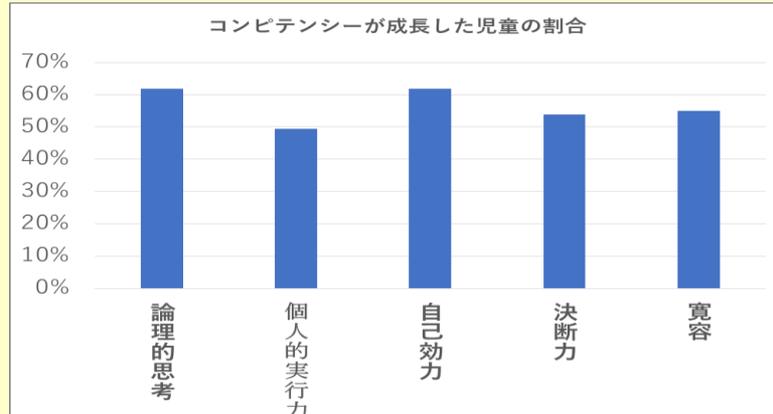
0.2～0.4 弱い正の相関がある

0～0.2 ほとんど相関がない

・決断力, 個人的実行力の伸びと自己効力の伸びに正の相関が見られることから, 自分の意志で物事を決め, 行動することと自分ならできると自信をもつことは相関していることが分かる。

②

資質・能力の変容



コンピテンシー	割合 (%)
論理的思考	60
個人的実行力	48
自己効力	60
決断力	52
寛容	52

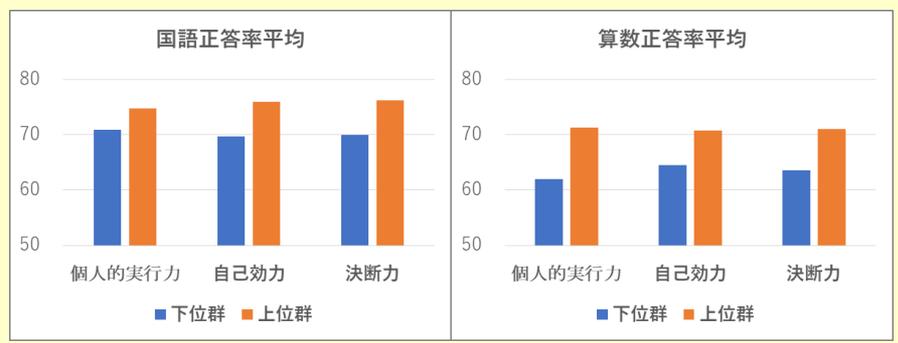
・ジャムボードを活用して学習計画を立てて, 自分のペースで学習を進め, 自分の立てた目標に対して振り返りを行う学びのサイクルを繰り返す中で, 現状を踏まえて何を学ぶのかを自分で決めて取り組むようになり, どのような課題に対しても自信をもって取り組むようになるなど, 「自己効力」が大きく伸びた。

・教材研究の段階で, 本質的な問いを設定し, 教科の見方・考え方を働かせる単元構成を工夫したことにより, 授業の中で学び合い, 探究する姿が多くみられるようになった。その結果, 筋道立てて物事を考えるようになるなど, 「論理的思考」が大きく伸びた。

※令和3年度 1回目から令和3年度 2回目(最終受検)の成長を分析

③

資質・能力と学力テスト結果との相関



【国語・算数】
 ・コンピテンシーのスコアが高い児童の方が、学力テストの結果が高い傾向が見られた。特に、算数科における個人的実行力に顕著な差が見られた。

④

児童アンケート結果

<ICT活用による、児童が学び合い、探究し続ける授業について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	100%
理解度	これまでより分かりやすかった	98%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	100%

【主なコメント】
 ・自分で計画を立てて学ぶ経験は、家庭学習でも使えて役立つ。
 ・友達が支えてくれるので、最後まであきらめずにがんばることができた。

⑤

教職員以外への結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個への対応を意識することで、個別の声かけが増えたり、児童の実態把握がよりできるようになったりした。 ・教材研究を通して単元で教えるべき内容が精選すると、指導者側に余裕が生まれて、児童の多様な学びをサポートすることができるようになった。
児童の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで学ぼうとする児童が増えた。 ・自分たちで授業をつくらせているということを実感しながら学習を進めているため、良い学級づくりにもつながっている。

今後の対応

次年度以降に取り組みたいこと

・今年度、高学年を中心に、ジャムボードを活用して学習計画を立て、自分のペースで学習を進める取組を行ったところ、児童が見通しをもち、主体的に学ぶ姿が見られた。次年度は、この取組を深化させるとともに、学校全体でどのような取組ができるのかを検討し、組織的に取組を進めていく。